

平成28年度事務事業評価シート					取組みコード	41124
区分	事務事業		担当課	生涯学習課	作成日	平成28年4月28日
事業名	図書館運営事業費		開始年度	昭和57年度	予算科目	9.4.4.4.1

1 事業の概要

総合計画での位置づけ	
部	第4部 豊かな人間性を育む文化のまちづくり
章	第1章 生涯を通じて学ぶ体制づくり
節	第1節 生涯学習の充実
基本施策	2 生涯学習活動の推進
取組みの基本方向 (4)ボランティアとの連携により、読書普及活動を推進します。	
根拠法令等	社会教育法、愛川町立公民館条例
目的 (誰・何を対象に、何のために)	子どもから高齢者までが、豊かな知識や経験のもとで充実した生活が送れるよう、文化施設として重要な役割を持つ図書館を運営するもの。
内容・方法 (何を行っているのか)	図書資料等の購入、ブックスタート事業の実施、図書システム維持管理、講座委託、映画上映等。

2 指標(事)。

本事業が属する総合計画の節の成果指標		指標名	平成21年度	平成28年度			
		『生涯学習の充実』について「満足」と感じる住民の割合	32.8%	43.0%			
		あいかわ楽習応援団「みんなの先生」の登録件数	48件	55件			
(A)総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果			貸出冊数や利用者の増加により、町民の生涯学習への意欲が高められること。				
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度 (平成25年度)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
図書貸出冊数	増	図書館の利用状況を知るため、図書貸出統計を見る。	計画値		72,500.0	72,600.0	80,700.0
			実績値	72,392.0	72,501.0	80,607.0	
			達成度※自動計算		100.0	111.0	0.0
(B)成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動		読書普及のため、お話会や読書普及講座など魅力ある行事を行う。					
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成26年度	平成27年度	平成28年度
お話会、映画、読書普及講座などの行事への参加者数	増	各事業の参加者の推移を見る。	計画値		684.0	1,900.0	734.0
			実績値		734.0	1,954.0	
			達成度※自動計算		107.3	102.8	0.0

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

3 事業費の推移と財源内訳			(E) 平均人件費(円/年)	8,300,000		
年 度			基準年度(決算) (平成25年度)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算見込)	平成28年度(予算)
(A) 事業費(円)			18,158,707	19,214,951	19,255,875	19,461,000
(B) 概算職員数(人)			1.000	1.000	1.000	1.000
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算			8,300,000	8,300,000	8,300,000	8,300,000
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算			26,458,707	27,514,951	27,555,875	27,761,000
単位当たりコスト※自動計算			365.5	379.5	341.9	
財源内訳(円)	特定財源	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
	一般財源※自動計算		26,458,707	27,514,951	27,555,875	27,761,000

4 事業の項目別評価(分析)

項 目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である		B
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない	○	
	国や県において実施している事業との重複がない		
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの低下や変質がない	○	
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている	○	
	受益に応じた負担は適正である	○	
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である	○	
	事業・サービスの対象者の日常生活に必要な不可欠な事業である		
上記のいずれにも当てはまらない			
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成27年度の目標を達成している	○	A
	基準年度と比較して成果が向上している	○	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用増≦成果アップ	B
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	直接的	A
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		良好に実施できている	

5 特記事項

2指標(B)活動指標の平成27年度実績値については、通常の講座やお話会に加え、読書普及講座を町内中学校を巡回して開催し、全ての中学生が受講したため突出した数値となっている。

6 自己評価(担当課)

評価結果	現状維持
理由	図書館事業として行うことが効果的・効率的な事業を継続するとともに、住民への周知を工夫するなど、引き続き幅広い年齢層の来館に繋がるよう努める。
今後の方向性	幼少期から本に親しむことは生涯学習の重要な要素であるため、お話会やブックスタートなど読書ボランティアと連携をとり内容の充実を図りながら、読書普及と来館につなげてゆく。

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	現状維持
今後の方向性に係る意見等	所管課の方向性のとおり

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	
今後の方向性に係る意見等	

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

現状のまま引き続き事業を実施する。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	現状維持
理由・改善方針	現状のまま引き続き事業を実施する。